

# 子ども達が泳げる天然河川を 未来へ手わたそう！

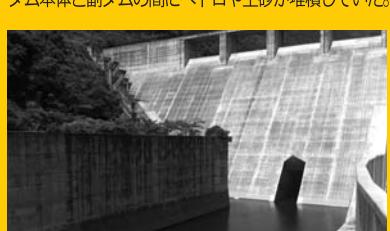


## 最上小国川ダム建設が強行されています!! 鮎釣りに年間3万人訪れる清流、最上小国川。

漁業権をもつ、小国川漁協は反対を貫いています。  
漁協の同意なくダム本体着工はできません。  
周辺工事は全く税金のムダになります。

### 穴あきダムは清流環境や生態系を破壊します。

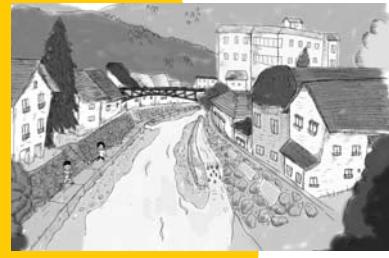
- 供用6年の最新型穴あきダム「益田川ダム(島根県)」はダム本体と副ダムの間に土砂やヘドロがたまっています。益田川は、工場廃液が流れ込む漁業権がない川。穴あきダムはまだ、小国川のような清流環境につくられた例はありません。
- 県の委員会では検討不足であり深刻な漁業被害も心配される。(河川生物調査事務所 高橋勇夫)
- 穴あきダムはダムの延命策でしかない歴史的な愚行だ。(元京都大防災研所長 今本博健)



「環境にやさしい」実績も根拠も全くない穴あきダム。



中央の堰が土砂堆積、水害の原因。



温泉のケアをしつつ堰を除去し河床土砂除去、  
橋脚撤去で治水と温泉街の再生を。

### 赤倉流域の河道改修、温泉街の再生事業こそ 小国川流域の生命と財産を守る。

- 温泉旅館の湯量確保のために県がつくった堰が、川底に土砂をため、川床があがって、水が流れにくくなり、水害を発生させています。
- 赤倉温泉流域は土砂が堆積し、護岸で川を狭めるなど、極めて不自然だ。温泉街を守るには80億円のダムよりも河道改修が先決だ。(新潟大名誉教授 大熊孝 今本博健 桑原英夫)
- 温泉湯脈に影響を与えることなく河道掘削等をおこなうことは可能だ。(山大 川辺孝幸)
- 最上町舟形町両町の流域人口推計で、2010年の16,011人から2040年には9,389人へと人口が減ると推定されている。今、如何に持続可能な未来を叶えるかを再考すべき時。

小国川の鮎は、年間22億円の経済効果を流域にもたらしている。ダムで環境が破壊されれば、年10億円の損失になる。(近畿大 有路昌彦研究室)

ダムを建設すれば、「ダムのない清流」という小国川の大きな魅力はなくなる。ダムの建設を中止して、赤倉温泉の再活性化プラン作りに切り替えれば、大きな話題になるとともに、全国から渓流を楽しんだり、「脱ダム」の視察に来たりする人々でにぎわうだろう。自然と共生する地域振興こそ未来をつくる。

(元 報道ステーション解説員 高成田 亨)



鮎と清流が交流人口を支えてきたのでは?



天皇献上品、松原鮎の食文化を失って良いのか?

来る10月5,6日 小国川を守ろう!「穴あきダムと鮎を考える」全国集会を  
赤倉温泉で開催予定です。ダムのない治水を叶えましょう!